



WORLD
RESOURCES | ROSS
INSTITUTE | CENTER

※ 事務局翻訳

アクセシブルで安全、公平な都市 に向けて

ALEJANDRO SCHWEDHELM

世界資源研究所・ROSS持続型都市センター

2019年10月

A vibrant, sunlit urban street scene. In the foreground, a man with sunglasses and a white t-shirt is riding a skateboard. To his right, a woman in a black tank top is riding a blue bicycle. In the background, a diverse group of people is walking along a tree-lined sidewalk. The scene is bright and active, suggesting a healthy, pedestrian-friendly environment.

1. 路上安全、原則とアプローチ

2. カウント：良好なデータとGIS分析

3. チェンジ：目標とする施策

4. スケール：ネットワーク構築・規模拡大のためのパートナー間協力

1. 路上安全、原則とアプローチ

セーフ・システム・アプローチ



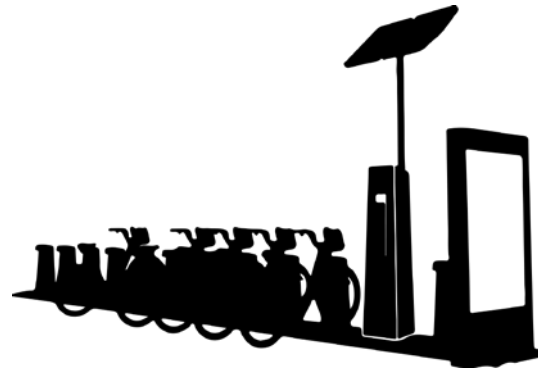
註: 原則は多色印刷、中核的要素はグレー印刷、対策領域はオレンジ印刷で表現

回避、転換および改善 (Avoid, Shift and Improve: ASI)



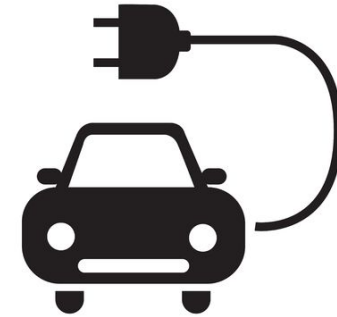
回避

土地活用の最適化、異種要素混在ゾーニングとコンパクトでコネクタつコーディネートされた (Compact, Connected & Coordinated: 3C – まとまりと結び付き、整合性のある) 地域社会の形成により不要な移動を「回避」



転換

安全で効率的、便利で信頼の置ける選択肢を実現する、設計の改善 + より優れた投資により、利用者を持続可能でより安全なモードへと「転換」

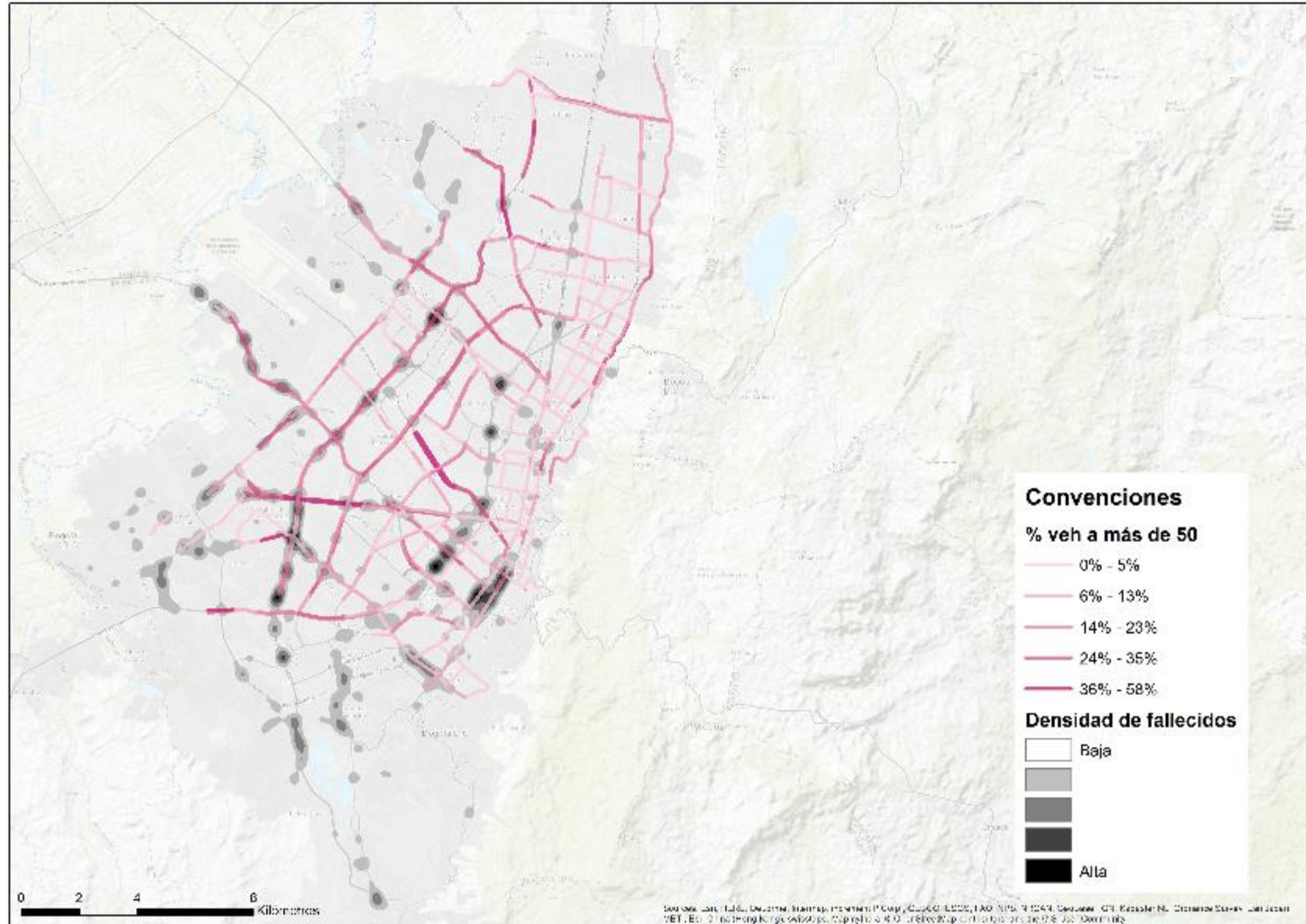


改善

燃費効率とエンジン・テクノロジー (EV) の「改善」、より厳格な排出規制と安全基準の導入

2. カウント： 良好なデータと GIS分析

事例： ボゴタ市(コロンビア)における走行速度と死傷事故



3. チェンジ： 対象に応じて調整 された施策

プロジェクト事例： ムンバイ(インド)HP交差点



暫定から恒久へ

<https://youtu.be/3ndXecuCAp4>



4. スケール：

ネットワーク構築・規模拡大
のためのパートナー間協力

スケールアップ

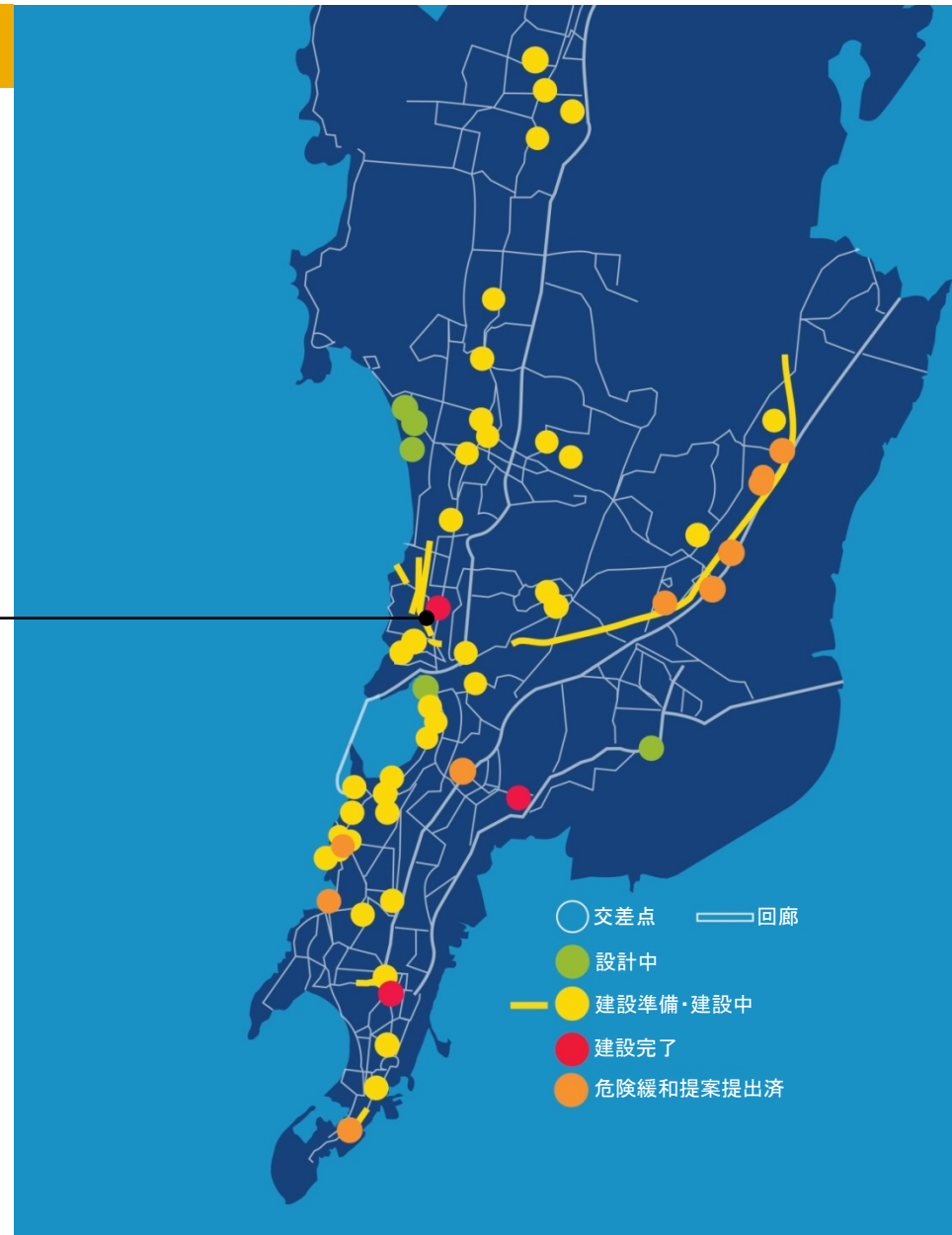
ムンバイHP交差点

HP交差点の成功後の試行回数: 4回

ムンバイでWRI Indiaが設計した交差点の総数: 55カ所

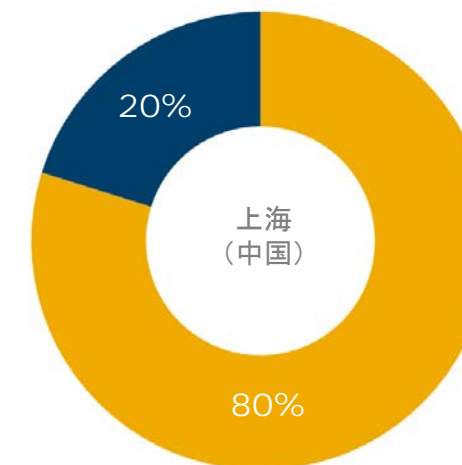
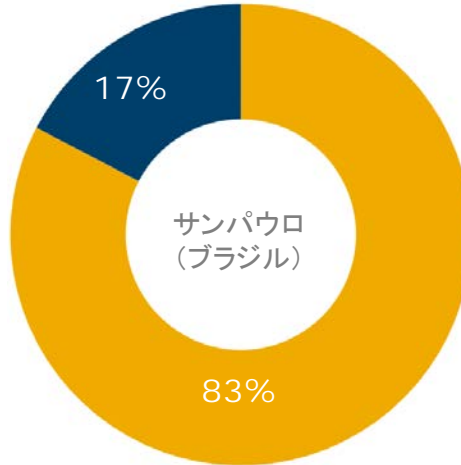
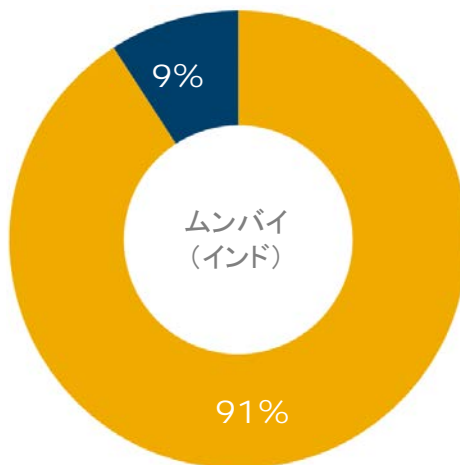
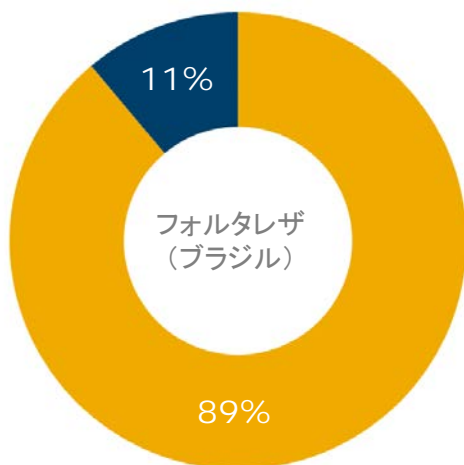
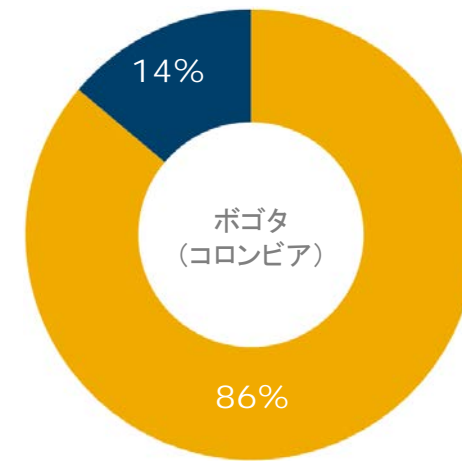
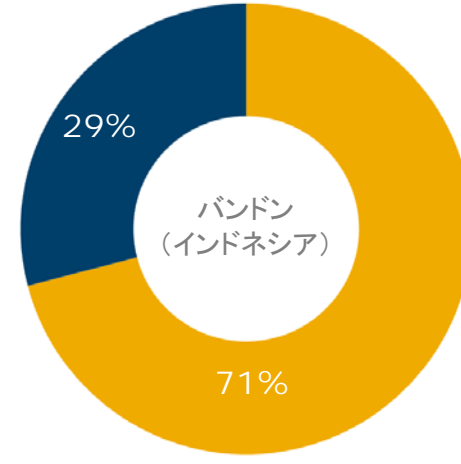
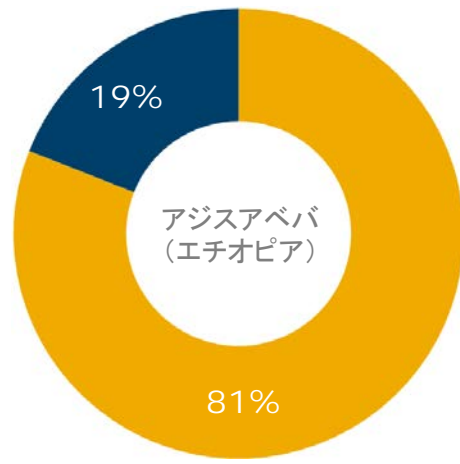
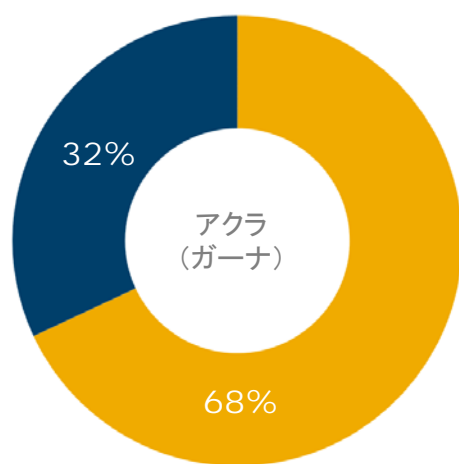
HP交差点後に建設された交差点数: 3カ所

進行中の恒久的交差点建設: 3カ所



添付スライド

最もリスクに晒されている階層：歩行者・自転車および自動二輪利用者



■ 他の全ての交通手段における死亡者(四輪車、公共交通機関含む) ■ 歩行者・自転車および自動二輪利用者

街路における変革



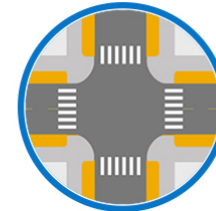
自転車専用レーン
上海、フォルタレザ、サンパウロ、アジリアベバ



自転車シェア
バンドン、上海、フォルタレザ



車線路面標示
アクラ、アジリアベバ、ポゴタ



交差点再構成
アジリアベバ、フォルタレザ、バンドン



横断歩道
アジリアベバ、バンドン、バンコク、フォルタレザ**



歩道改良
ムンバイ、バンドン、サンパウロ、アクラ、バンコク、ホーチミン*



安全地帯
ポゴタ、ホーチミン、フォルタレザ



徐行区間
ポゴタ、フォルタレザ



バス専用レーンおよびBRT
サンパウロ、ホーチミン、アジリアベバ、アクラ、フォルタレザ、上海



公共交通機関への安全な乗降
ホーチミン、ムンバイ、アジリアベバ



街灯
アクラ



広場・公共空間
サンパウロ、アジリアベバ

* 各市は保護付の歩道を導入
** フォルタレザ市は高低差付横断歩道を導入



なぜタクティカル・アーバニズム (Tactical Urbanism) か？

- タクティカル・アーバニズムは思慮深い (judicious) 計画手法への代替策である。
- 大規模かつ恒久的な投資に先立って異なった**コンセプト**を文脈の中で**テスト**できる。
- 変化を**反復的・漸進的なプロセス**により実現する。
- 認識された欠陥に注目を集め、**対応を産み出す**。
- より大規模な公的取り組みを可能とする。
- 責任を個人に還元する。
- **相異なる利害当事者間の信頼醸成**に役立つ。

